

東京 2020 パラリンピック競技大会実施種目決定！ 2017年9月4日

国際パラリンピック委員会（IPC）は、2017年9月4日、アブダビ（アラブ首長国連邦）で理事会を開催し、東京 2020 パラリンピック競技大会において、22 競技 537 種目、選手数の上限が 4,400 名となることを発表しました。

IPC の発表の主なポイントは以下のとおりです。

- 1,756 名の女子選手枠が少なくとも確保され、ロンドン 2012 大会と比較して 17%増となる。294 名の混合枠により、さらに増える可能性がある。
- 新たに東京 2020 大会から実施されるバドミントンでは 14 種目、テコンドーでは 6 種目が実施される。
- リオ 2016 大会から新採用となったカヌーでは、ヴァー種目で 3 つのクラスが追加となり、合計 9 種目が実施される。
- 障がい程度が重いアスリートの参加機会を増やすという IPC のコンセプトに沿って、ボッチャでは、リオ 2016 大会から 8 名増えて 116 名の枠となる。
- 14 競技がリオ 2016 大会と同じ選手数で実施される。ボッチャ、カヌー、柔道、射撃、卓球、トライアスロン、車いすフェンシングは選手数が増える。
- 陸上競技と水泳で種目数が減る一方、カヌー、射撃、卓球、車いすフェンシングでは種目数が増える。
- 陸上競技、水泳、トライアスロンの最終的な種目の一覧は後日公表される。

22 競技 537 種目は、以下のとおりです。

アーチェリー（9 種目）、パラ陸上競技（168 種目 今後決定）、バドミントン（14 種目）、ボッチャ（7 種目）、カヌー（9 種目）、自転車競技（50 種目）、馬術（11 種目）、5 人制サッカー（1 種目）、ゴールボール（2 種目）、柔道（13 種目）、パラパワーリフティング（20 種目）、ボート（4 種目）、パラ射撃（13 種目）、シッティングバレーボール（2 種目）、パラ水泳（146 種目 今後決定）、卓球（31 種目）、テコンドー（6 種目）、トライアスロン（6 種目 今後決定）、車いすバスケットボール（2 種目）、車いすフェンシング（16 種目）、ウィルチェアーラグビー（1 種目）、車いすテニス（6 種目）